

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	29	地域資源との協働 コロナ禍以降、ボランティアの方の問い合わせが薄く、利用者の生活援助が本人を取り巻くスタッフや家族が中心となってしまっている。	ボランティアの方々の継続的な交流があり、利用されている方々に対して「関われる人数」の分母事態を増やす。 関われる人数の総数が増える事で活動圏域を広げていく糸口を模索する。	ボランティア募集の継続 SNSの活用を検討し、幅広い方に対しての情報が発信できるようにする。	～10ヶ月
2	49	日常的な外出支援 在宅介護サービスやご家族での介護が浸透するにつれ、グループホーム入居時点のご利用者様の年齢や介護度・ADLの水準が変わってきている。元気な方がグループホーム、から、最期の時までグループホーム、というように現状が移り変わってきているように感じる。それに伴い職員に求められる技能・技術が認知症ケアに対するものだけでなく、身体的な介護力も求められるようになってきた。利用される方々としても「活動」「関わり」以前に「生活の安定化」を必要とする方が前提として増え、活動時間よりも介護に充てる時間が多く必要になった事で外出・活動に時間を充てる事が難しい状況となっ	在宅介護力が向上したことで、以前であれば入居していたような状態の方が在宅生活を継続しやすくなった事は純粋に喜ばしい、職員配置に変更はないため事業所として持てる介護力に変化はない。職員のみで彩りある生活を担保しきることがどんどん難しくなっていく事が予想されるため、上記に重複してしまうが、地域資源を有用に活用していく事がより重要になってくる。「生活の安定化(介護)」は職員が担い、「良い時間(関わりや活動)」をご家族も参加いただく、ボランティアの方にはその方々の強みを活かした分野で生活に彩をもたらしてもらう。	・ご家族との情報の共有率を上げる(案内や電子媒体を用いた情報共有ツールの活用・普及を目指す)ことで事業所との距離感を縮めていく ・ボランティア問合せに対するレスポンスを早める。	～12ヶ月
3					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。